

## 巻頭言

# 次世代に伝える協同と生協

杉本 貴志（関西大学商学部教授）

若者に協同の価値をどう伝えるのか。魅力ある職場をどうつくるのか。配送の人手が足りず、管理職まで動員してなんとかその日の業務をこなしている生協の現場にとって、喫緊の課題であろう。そしてそれはまた経営の長期的な観点から見ても、あるいは運動の理念という点からしても、生協が常に考え続けなければならない課題である。

関西大学商学部には、「大阪の支え合いの経済を考える」という科目がある。これは大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（OCoNoMi おおさか）による寄附講座で、講師は毎回 OCoNoMi おおさかの構成組織から派遣され、なにわの地においてそれぞれの分野でいかに「非営利・協同」の力でたすけあいの経済と生活が営まれているか、現場の状況が当事者によって語られる。2023 年度秋学期は、各種協同組合のほか、大阪赤十字や大阪ボランティア協会からもお話を伺っている。

【食と生活①】大阪農業のすがたと農業協同組合（JA）の役割

【食と生活②】漁師は海の守人～大阪における漁業協同組合の取り組み～

【食と生活③】大阪における地域購買生協の事業と取組み

【暮らしの安心・安全①】大阪における地域での医療福祉生協の取組み

【暮らしの安心・安全②】大阪における共済事業の意義・役割について

【暮らしの安心・安全③】大阪における非営利・協同組織の金融の役割とは

【暮らしの安心・安全④】大阪における非営利協同セクターの連携による地域共生活動

【環境・災害・ボランティア①】大阪の森林を守り育てる取組み

【環境・災害・ボランティア②】大阪における災害支援、防災・減災を考える

【環境・災害・ボランティア③】大阪における市民活動・ボランティアの役割とは

【働く①】大阪における労働者自主福祉運動の“これまで”と“これから”

【働く②】もう一つの働き方～大阪における協同労働の協同組合の実践～

【連携】大阪における協同組合連携組織の現状と課題～全国の協同連携の実情をとおして

この科目は大学コンソーシアム大阪を通して、大阪府内の他大学に通う学生も履修可能となっているから、少数ではあるが大学生協の学生委員を務める学生など、関西大学以外の学生も履修しており、中には卒業後も生協の世界で働くことになった若者もいる。授業を運営していて近年感じるのは、実はいまの時代、相当数の若者の価値観が非営利・協同の世界や考え方にむしろ接近しているのではないか、ということである。

そこで、半期 15 回の授業だけでなく、授業を一通り終えた年末に、「協同組合で働くということ」と題して、協同組合で働かれている方はどのような職業生活を送っておられるのか、若手を中心に各種協同組合職員の方をお呼びして、お話を伺い、質疑応答をする催しを企画し、ゼミ生を中心に「将来の職場」という視点で生協など協同組合を考えてもらう機会をつくってみた。協同組合版の業界研究会である。

営利企業では盛んに行われている業界セミナーだが、非営利・協同組織がそのような催しを実施しているということは聞いたことがなかったので、近畿労働金庫や OCoNoMi おおさかにお願いして、この行事を立ち上げたのだが、その効果は予想以上のものだった。筆者のゼミは協同組合を専攻するゼミであるが、それでも実際に協同組合に就職しようという学生は、以前は年に 1 人、あるいは数年に 1 人程度だった。それが直近の数字では、ゼミ生の実に 3 分の 1 が協同組合関連組織に就職しているのである。

協同の価値をきちんと伝えれば、それに反応する若者は必ずいる。筆者はそう確信している。